

(2) 齋藤源蔵

元治元年（1864年）～

昭和19年（1944年）

齋藤吉五郎の養子となりました。



明治36年4月、源蔵が中心となって無限責任新郷信用組合をつくりました。この時、集めたお金は1口25円で、39人で58口のお金が集まりました。これは、会津では5番目という早いものでした。この時、源蔵は初代の組合長理事となって、組合がうまくいくよう努力しました。

また、明治41年、第1回県産業組合臨時総会に出席して、県に産業組合銀行をつくることを提案するなど、注目される活動をしました。明治38年には、窪倉にある国有林を払い下げてもらい、10ヘクタールの土地を開墾し、果樹・野菜・おかぼなどを栽培しました。また、10mの地下に長さ100g、幅1.5m、高さ1.8mの地下室を作り、作物の種ややさいをたくわえておくための事業を始めたりしました。

また、当時ではめずらしい発動機を買って使うなど、新しいことをとりいれて農業をよくしようとしてきました。大正5年5月には、自分が先に立って、養蚕組合をつくりました。また、農業についての研究家として、部落の青年団にまねかれて、講演することも多かったということです。

80年の一生を、産業の発展のための仕事に力をつくした人でした。